

『精算報告』

都市再生整備計画（第2回変更）

しも じょう ち く
下 條 地 区

ながの しもじょうむら
長野県 下條村

平成21年 12月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	しもじょう 下 條 村	地区名	下條地区	面積	838 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 21 年度				平成 19 年度 ~ 平成 21 年度		

目標
<p>テーマ 下條地区を中心に住環境の向上を図り、人・情報・文化・産業が集まり「若者が住みたくなる」「生き生きと生活できる」ような、心豊かな、安心でゆとりのある生活空間を創出するまちづくり</p> <p>目標1 だれもが安心して暮らせる生活環境や、住み続けたい空間を創出し、定住促進につながるまちづくりを目指す。 目標2 人・情報・文化・産業が集まる魅力あるまちづくりを目指す。</p>

目標設定の根拠
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>本村の人口は、昭和25年の6,410人(国勢調査)を頂点に下降線をたどり、昭和50年には4,000人となり極度の過疎状態となったが、国道151号線の改良による飯田市方面への通勤距離短縮、優良企業の誘致の成功など雇用機会が増えたことから、平成2年までは141人の減少にとどまった。</p> <p>その後、道路交通網の整備、全村水道施設の整備、全村合併浄化槽設置事業などの生活基盤整備が鋭意進められたことや、村内に湧出した温泉を利用した村営・民営施設とその周辺のスポーツ公園や第三セクターによるゴルフ場のオープンなど、観光・レジャー施設も整備され、また若者定住等人口の増加を図るため若者向け村営住宅の建設、更には宅地用地の分譲を進めたことにより、平成7年度国勢調査人口は4,000人台を回復、平成12年～16年の5カ年間は200人余の増加となっている。</p> <p>しかし、生活の安全面をみると、東海地震の地震防災対策強化地域に指定された当地域は、地形が急峻で、もろい地質に加え下條山麓断層をはじめとする活断層が分布すると共に、断層破砕帯の発達による土砂の供給源となるなど、自然災害の危険性が極めて高く、安心して暮らせる住環境整備が望まれている。</p> <p>当地域では、昭和61年に防災行政無線、平成9年にオフトーク放送システムを導入し広報連絡体制を整備を進めてまいりましたが、防災無線は老朽化が著しく、オフトークについては固定電話の利用者の減少により加入率が低下し、緊急時の情報伝達システムとしての機能を失いつつあり、行政情報を的確に伝え、また高齢化社会に対応した安全で親しみやすい「新たな情報伝達システム」の整備が急務となっている。</p> <p>こうした中、平成16年より「防災情報ネットワーク研究委員会」を発足し、防災無線のデジタル化、新しい情報伝達システムの整備など、安全なまちづくりの研究を重ねています。</p>
課題
<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して暮らせる生活環境の整備。 ・感性豊かな、住み心地の良いまちづくり。 ・若者定住する魅力あるまちづくり。 ・情報の過疎からの脱却。
将来ビジョン(中長期)
<p>下條村総合計画理念: 魅力あるまちには、人・情報・文化・産業が集まり、その地域は魅力を増し、また新たな魅力ある人・情報・文化・産業が誕生していく。こうしたらせん状のまちづくりの上昇構造を創る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住者が村に根付き、地域に溶け込んで安心して暮らせる居住空間の整備を進め、新たな定住者と一緒になって活力ある地域づくりを推進する。 ・デジタル防災無線、音声告知システムなど情報通信基盤を構築し、災害時の情報伝達、初期非難の早期対応を図るなど、安心して暮らせる生活環境を整備する。 <p>また、ケーブルテレビやブロードバンドサービス環境の整備により、情報格差を是正し企業誘致、若者定住を強力に推進し地域の活性化を図る。</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
定住者の増加	人	事業前後における地区人口の増減比較	良好な居住環境の整備により定住者の促進を図る。	4,196	18 年度	4,230	22 年度
各種警戒情報の周知率	%	各種警戒情報が周知された人数	安心して暮らせる生活環境の整備を図る。	49	18 年度	95	22 年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・集落と主要公共施設(役場・総合健康センター・村立図書館)を繋ぐ村道、主要公共施設を相互に繋ぐ村道を改良することにより、アクセスが良くなり利便性が更に向上する。</p> <p>・居住者に安らぎを与える公園を整備し、良好な住環境、居住空間が整備され、若者定住の促進が図られる。</p>	<p>道路改良・改修(基幹事業)</p> <p>公園整備(基幹事業)</p>
<p>・デジタル防災行政無線、光ケーブルによる情報通信網を利用した音声告知システムとケーブルテレビの文字放送により各種警戒情報の常時提供、災害時の非難情報等正確な誘導支持を伝達することにより、安全で安心して暮らせる生活環境が整備される。また、当地区にはテレビの難視聴地区があるため、ケーブルテレビの整備により難視聴が解消され生活環境の向上が図られる。</p>	<p>地域基盤生活施設</p> <p>防災行政無線整備(基幹事業)、音声告知システム整備(基幹事業)</p> <p>CATVを利用した文字放送システム(基幹事業)</p> <p>CATVシステム(提案事業)、ブロードバンド利用環境整備(関連事業)</p>
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの実現化に向けた住民意識】</p> <p>・平成16年に発足した「下條村情報ネットワーク研究委員会」において、音声告知、ケーブルテレビ、防災行政無線の研究と、住民ニーズ調査を実施した。ニーズ調査の結果では、音声告知の加入を93%、ケーブルテレビの加入を80%の方が多くの住民が希望している。</p> <p>・道路等の維持修繕については、地区住民が自主的に行っている。特に簡易な修繕、改良については資材費のみを村が負担し、住民が施工するなど、住民が自ら汗を流して対応することにより、「自助・互助・公助」の考えが生まれ、住民総参加のまちづくりの基本となっている。</p>	

